

【総合・新領域系（総合領域）】

博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究

かんば のぶゆき
神庭 信幸

（国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部保存修復課・課長）

【研究の概要等】

本研究は、臨床科学の視点に基盤を置いた文化遺産の新しい保存手法である、包括的保存システムに関する研究開発を行うことが目的である。具体的には、診断、予防、修理などの臨床保存を実践する現場と、そこから生成されたデータによって構成された情報空間とを高度に統合することにより、リスクを最小限に抑制した公開と保存を可能にすることである。

環境に対する人間の働きかけとしての環境制御、環境から受ける影響により文化遺産に生じる劣化現象、劣化や事故を最小化するために行う人間の対処など、人間・環境・文化遺産の相互作用を精度高く把握し、制御していく。文化遺産に対するアクセスとコントロールは今日的課題として注目されている。それらの最適な関係を検出するための理論と仕組みを創出する点で、独創的な研究である。

【当該研究から期待される成果】

国立博物館が有する12万件余りの文化遺産の保全と公開に関し、現在の水準を遥かに越える安全性と持続性が付与されることになる。次に、包括的保存システムによる具体的な文化遺産保全の方策を国内外に提示することは、今日従来にない高いリスクが博物館運営に生じる状況にあって、安全な公開を保障し、最適な保存を確立するための基盤となる保存哲学（コンサベーション・フィロソフィー）と具体的な方法論を提供するものである。さらに、博物館が今後とも文化遺産を継承し、社会とのコミュニケーションを図るに相応しい中核の場として存続するために必要となる、次世代の保存システムを提起することになる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ 神庭信幸：博物館環境のマネジメント、『文化財の保存と修復10－博物館の役割と未来－』、文化財保存修復学会編、クバプロ、33 - 40、2008
- ・ 神庭信幸：プライマリ・ケアと臨床保存学、『博物館における保存学の実践と展望－臨床保存学と21世紀の博物館－』、東京国立博物館編、104-116、2007
- ・ 神庭信幸：東京国立博物館における環境保全計画－所蔵文化財の恒久的保存のために－、MUSEUM、No.594、61-77、2005

【研究期間】 平成20年度－平成24年度

【研究期間の配分（予定）額】

76,200,000 円（直接経費）

【ホームページアドレス】

<http://www.tnm.jp>